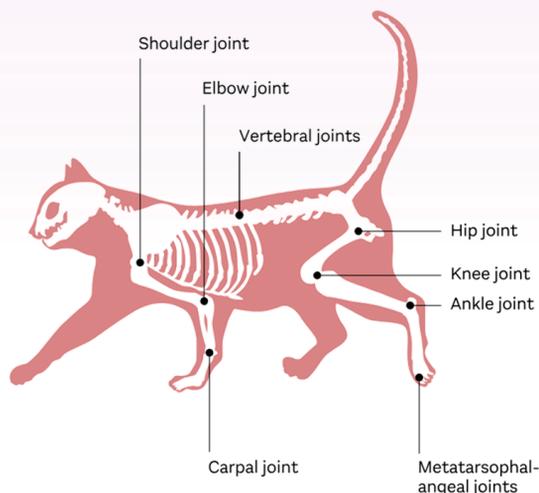


ニュースレター 号外

～ソレンシア使用レポート～



猫の変形性関節症

1歳以上で約74%、12歳超で90%の猫が変形性関節症(OA)の痛みの徴候を示していると報告されています。それほど一般的な疾患でありながら、治療率は約2%にとどまっています。調査により、飼主様の約70%が猫のOAという疾患自体を知らなかったことが明らかになりました。多くの猫ちゃんは痛みを抱えながらも表情に出しません。跛行(びっこ)などの明らかな徴候がなくても症状は進んでおり、もとに戻ることはありません。



ソレンシアとは

猫のOAに伴う痛みの緩和を目的とした新しい動物用医薬品です。慢性疼痛に関与する物質と結合することで痛みのシグナルの伝達を妨げ、痛みを緩和する作用があります。従来の痛み止め(非ステロイド系消炎鎮痛剤)の場合、胃腸障害や腎臓への悪影響が懸念され、特に高齢の猫ちゃんには長期的に使用しにくいことがネックになっていました。ソレンシアは肝臓・腎臓・お腹への影響は最小限。月1回の注射で良いため毎日お薬を飲ませる必要もありません。



利用者の

声



びちゃあくん
14歳

若い頃は走り回ったり、人の肩に飛び乗って驚かすのが大好きでした。「最近肩に乗らなくなったね」「そういえばキャットタワーにも登ってない」「1段ずつ階段を降りてた」などの痛みのサインが見られるようになり、昨年6月に初めてソレンシアを使ってみました。なんと翌日から階段をスタスタ降りられるようになりました。でも2週間ほどで元の姿に戻ってしまい、1か月後に再度ソレンシアを打ってみましたがあまり様子は変わりありませんでした。そのため2回の注射で止めてしまいました。しかし冬のある日、トイレのすぐ隣の床におしっこができていたんです。位置的に前足だけはトイレに入っていると予想されました。後ろ足がトイレの段差を超えられなくなっていたんです。これはいよいよ悪いぞ、と思いソレンシアを再開しました。翌日からちゃんとトイレにおしっこできるようになり、表情も明るくなりました。元気過ぎて逆にちょっと心配です。